

海技教育機構では経営基盤の安定を図り、船員教育訓練をより充実させるため、
賛助会制度を運用しております。多くの皆さまのご支援をお待ちしております。



- 国立館山海上技術学校
〒294-0031 千葉県館山市大賀無番地 TEL 0470-22-1911
- 国立口之津海上技術学校
〒859-2503 長崎県南島原市口之津町丁5782 TEL 0957-86-2151
- 国立小樽海上技術短期大学校
〒047-0034 北海道小樽市緑3-4-1 TEL 0134-31-5531
- 国立宮古海上技術短期大学校
〒027-0024 岩手県宮古市磯鶏2-5-10 TEL 0193-62-2340
- 国立清水海上技術短期大学校
〒424-8678 静岡県静岡市清水区折戸3-18-1 TEL 054-334-0921
- 国立波方海上技術短期大学校
〒799-2101 愛媛県今治市波方町波方甲1634-1 TEL 0898-41-9640
- 国立唐津海上技術短期大学校
〒847-0871 佐賀県唐津市東大島町13-5 TEL 0955-72-8268
- 海技大学校
〒659-0026 兵庫県芦屋市西蔵町12-24 TEL 0797-38-6201



独立行政法人 海技教育機構

〒231-0003 神奈川県横浜市中区北仲通5-57 横浜第2合同庁舎20階
Kitanakadori 5-57, Naka-ku, Yokohama City, Kanagawa Prefecture 231-0003, Japan.

TEL 045-211-7303 (D) FAX 045-212-0006



<https://www.jmets.ac.jp/>

JMETS 検索



Japan agency of Maritime Education
and Training for Seafarers

独立行政法人

海技教育機構

「船に乗り 海で学ぶ」
日本最大の船員教育訓練機関



四面を海に囲まれた我が国において、エネルギー資源や食糧等の輸入及び国内生産品等の輸出による貿易を担う外航海運、並びに、国内産業を支える物資輸送を担う内航海運は、経済、国民生活に大きな役割を果たしています。

海運の安定輸送は、高度な船舶運航技術を持つ船員はもとより、船員の経験を有し、陸上で活躍する海技者や船舶を安全に導く水先人に支えられています。

我が国における少子高齢化の進行による後継者不足は船員を取り巻く環境下でも厳しく、更には、船舶の技術革新、国際的な安全基準や環境保全の強化に対応するため、より高度な船舶運航の知識及び技能が船員に求められ、船員の確保・育成が喫緊の課題となっています。

独立行政法人海技教育機構は、船員養成のための学科教育と練習船による航海訓練を通じた一貫教育を実施するとともに、商船系大学や高等専門学校などの船員教育機関の学生に対する航海訓練を通じ、海運業界のニーズに応じた新人船員の養成に加え、船員の資格を有する者に対する資格教育、実務教育、訓練及び水先教育を行っています。

現在、我が国の海事産業界は一体となって海洋立国日本を支える人材の育成に取り組んでいます。当機構は、船員養成機関としての更なる機能強化を図り、船員養成の核として、優秀な船員の養成を着実に推進し、海上輸送の安全と安定に貢献するとともに、我が国の将来に向け、海事国際機関や諸外国の船員養成機関との協調と連携を図り、世界の海事産業の発展に貢献してまいります。

目次

1. 組織と沿革・・・・・・・・・・・・・ 4

2. 船員養成の課程・・・・・・・・・・・・・ 5

3. 学校教育・・・・・・・・・・・・・ 6
海上技術学校・海上技術短期大学校・海技大学校

4. 航海訓練・・・・・・・・・・・・・ 10

5. 研究活動・・・・・・・・・・・・・ 11

6. 安全への取り組み・・・・・・・・・・・・・ 12

7. 海事広報活動
・・・・・・・・・・・・・ 13

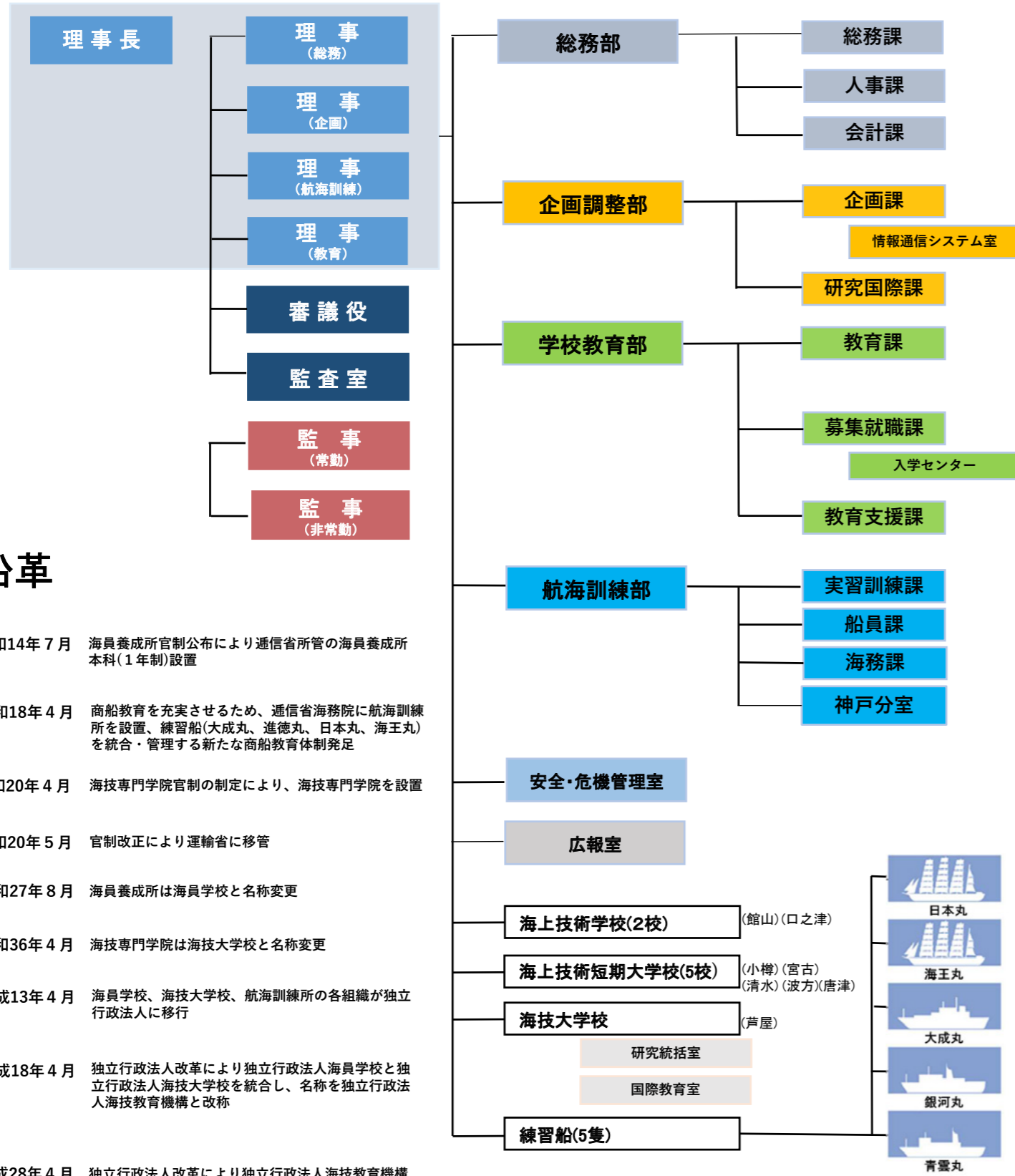
8. 国際貢献

9. 学校・練習船・・・・・・・・・・・・・ 14
所在地及び練習船隊の紹介

1. 組織と沿革

組織

独立行政法人海技教育機構は、横浜に本部を、全国各地に海上技術学校2校、海上技術短期大学校5校及び海技大学校の各学校を置くとともに、5隻の大型練習船により組織運営を行っています。

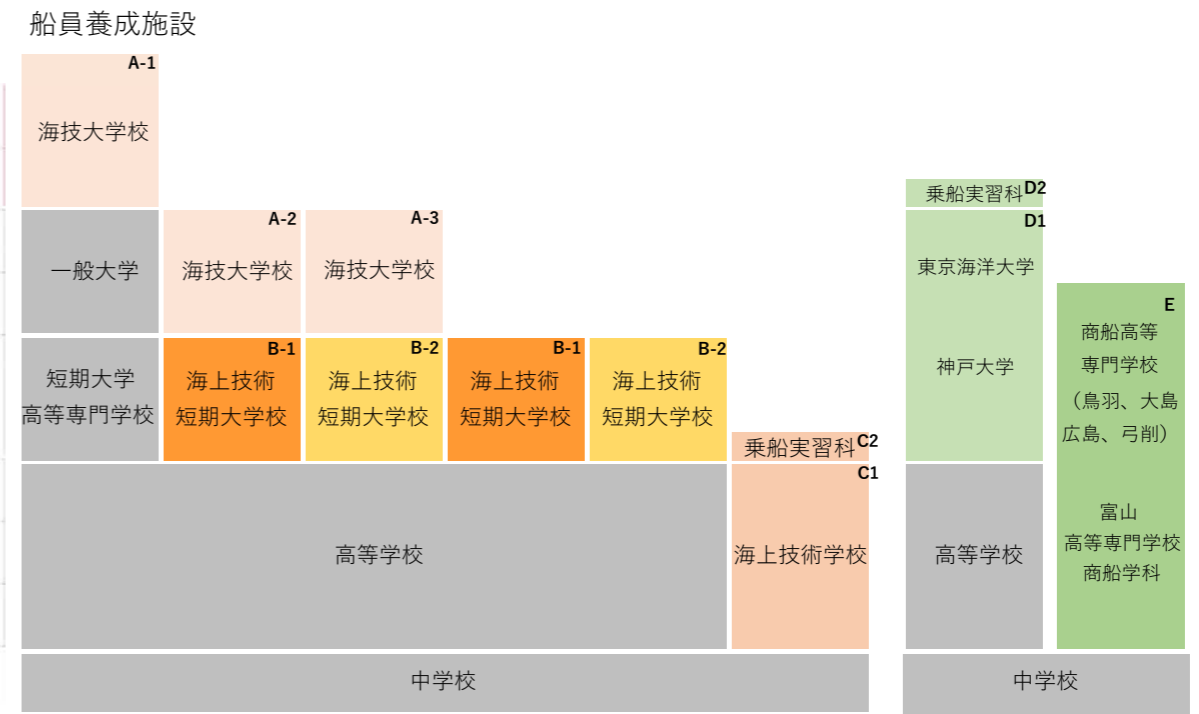
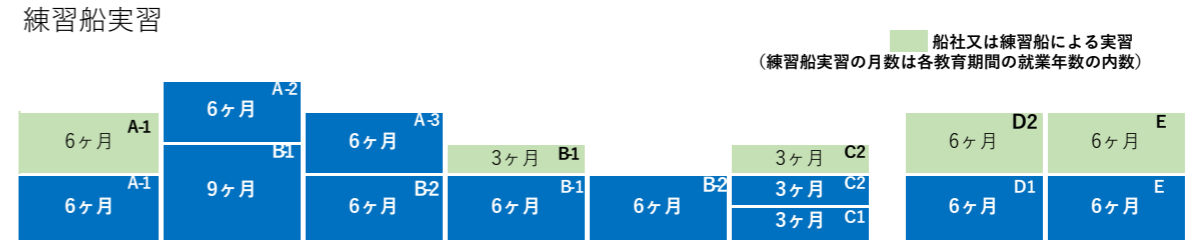
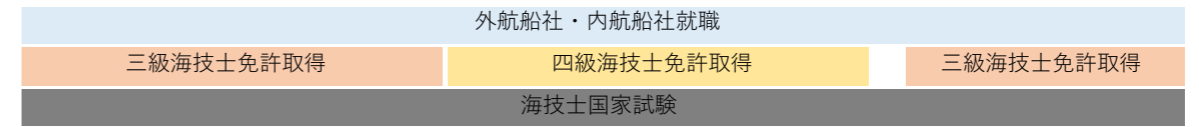


沿革

- 昭和14年7月 海員養成所官制公布により逓信省所管の海員養成所本科(1年制)設置
- 昭和18年4月 商船教育を充実させるため、逓信省海務院に航海訓練所を設置、練習船(大成丸、進徳丸、日本丸、海王丸)を統合・管理する新たな商船教育体制発足
- 昭和20年4月 海技専門学院官制の制定により、海技専門学院を設置
- 昭和20年5月 官制改正により運輸省に移管
- 昭和27年8月 海員養成所は海員学校と名称変更
- 昭和36年4月 海技専門学院は海技大学校と名称変更
- 平成13年4月 海員学校、海技大学校、航海訓練所の各組織が独立行政法人に移行
- 平成18年4月 独立行政法人改革により独立行政法人海員学校と独立行政法人海技大学校を統合し、名称を独立行政法人海技教育機構と改称
- 平成28年4月 独立行政法人改革により独立行政法人海技教育機構と独立行政法人航海訓練所を統合し、独立行政法人海技教育機構が承継

2. 船員養成の課程

海技教育機構は、海上技術学校、海上技術短期大学校及び海技大学校における学科教育と練習船による航海訓練を通じた一貫教育を実施するとともに、商船系大学や高等専門学校などの船員養成機関の学生に対する航海訓練を通じ、海技者として要求される資質を兼ね備えた優秀な船員を養成しています。



海技大学校 海上技術コース

- A-1 航海専攻・機関専攻**：一般大学、高等専門学校等を卒業し、海運会社に雇用されている者を対象とした養成課程(2年)。(海運会社に雇用されている者以外の者を対象とするコースにあっては2年6ヶ月)
- A-2 航海専修・機関専修**：海上技術短期大学校(専修科B-1)を卒業した者を対象とした養成課程(2年)。
- A-3 航海専修**：海上技術短期大学校(航海専科B-2)を卒業した者を対象とした養成課程(2年)。

海上技術短期大学校

- B-1 専修科(航海・機関)**：海上技術短期大学校 専修科に在学している者を対象とした養成課程(2年)。在学中に9ヶ月の実習を行う。
- B-2 航海専科(航海)**：海上技術短期大学校 航海専科に在学している者を対象とした養成課程(2年)。在学中に6ヶ月の実習を行う。

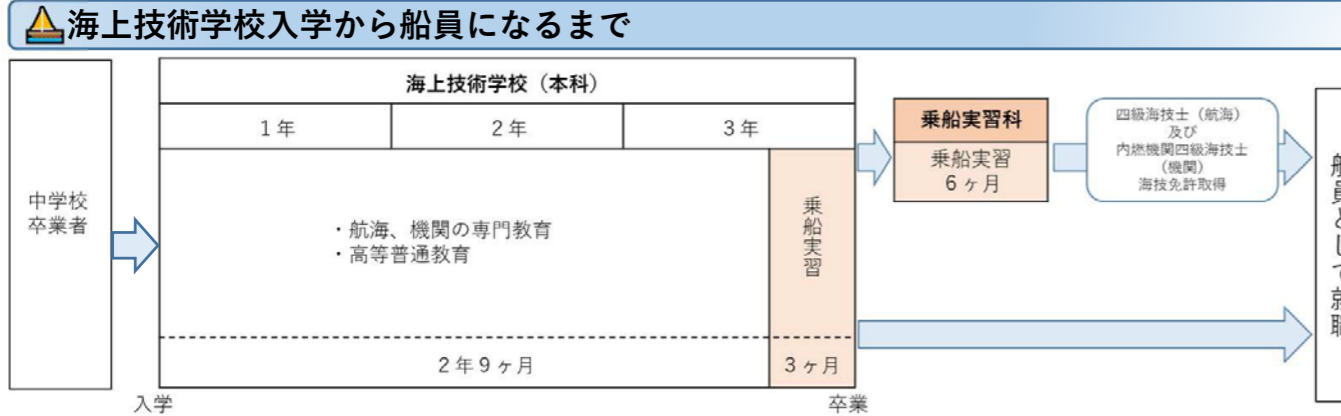
海上技術学校

- C 本科及び乗船実習科(航海・機関)**：海上技術学校(C1)及び乗船実習科(C2)に在学している者を対象とした養成課程(本科3年、乗船実習科6ヶ月)。本科在学中に3ヶ月、乗船実習科在籍中に6ヶ月の実習を行う。
- D 大学(航海・機関)**：大学(D1)及び乗船実習科(選択制)(D2)に在学している者を対象とした養成課程。
- E 高等専門学校**：高等専門学校に在学している者を対象とした養成課程。

3. 学校教育 (1)

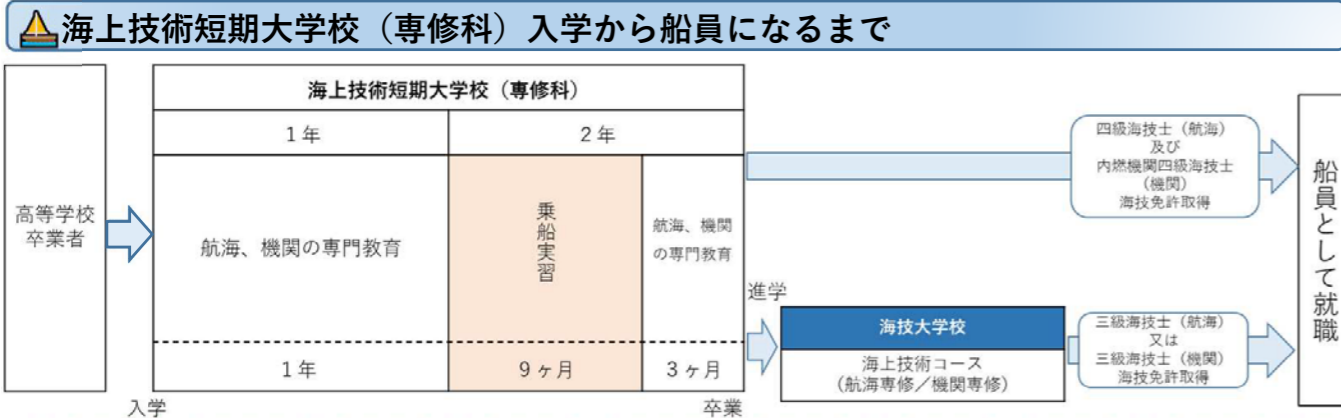
海上技術学校 (本科)

中学校を卒業した者を対象に、船員（航海士、機関士）になるために必要な海技資格を取得するための専門教育に加え、高等普通教育を行っており、卒業時には高等学校卒業と同等の資格が得られます。修業期間3年間の中に、練習船による3ヶ月の乗船実習が含まれていますが、海技資格を取得するには、卒業後に6ヶ月間の乗船実習科に進むことが必要です。



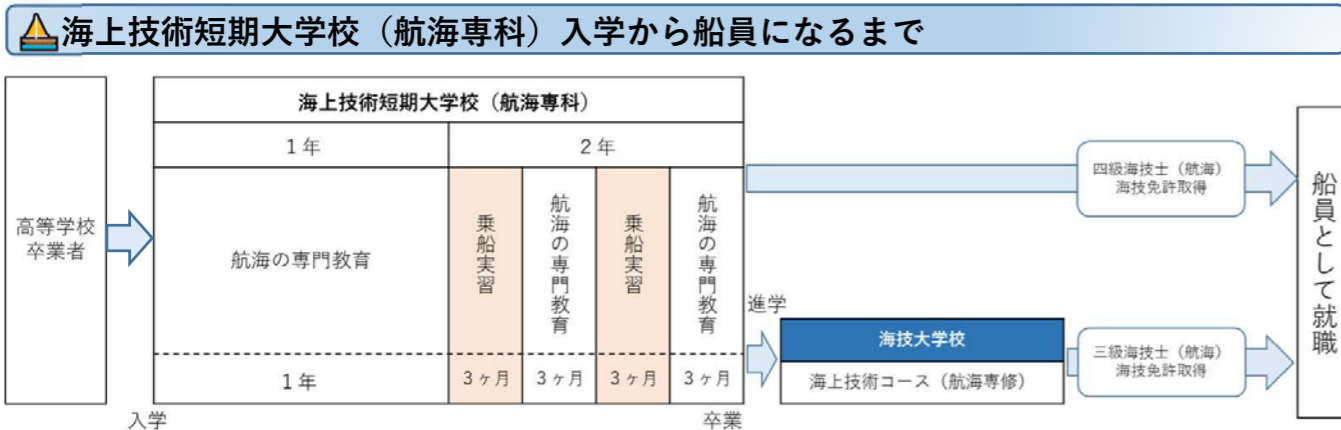
海上技術短期大学校 (専修科)

高等学校卒業以上の学力があると認められた者を対象に、船員（航海士、機関士）になるために必要な海技資格を取得するための専門教育を行っています。修業期間2年間の中に、練習船による9ヶ月の乗船実習が含まれています。



海上技術短期大学校 (航海専科)

高等学校卒業以上の学力があると認められた者を対象に、船員（航海士）になるために必要な海技資格を取得するための専門教育を行っています。修業期間2年間の中に、練習船による6ヶ月の乗船実習が含まれています。



就職

求人、本部で一括して受付、各校へ配信し、在校生、卒業生に適した就職口を斡旋しています。

◇主な就職先

- ・内航/外航の海運会社、旅客船、フェリー、官庁船
- ・造船、物流、機械メーカーなど海事関連産業分野

教科科目

普通科目

海上技術学校では、国語・社会・数学・理科・英語など、一般高校と同様の普通科目を履修します。卒業後は、高等学校卒業同等資格が得られ、大学等への進学ができます。

専門科目

航海系

船の操船、気象や貨物等の積み卸しに関する科目を学びます。計画通りに運航するための航法計算、航海計器類の取り扱い、海上交通法の把握といった航海士になるために必要な知識や技術を身につけます。

航海

船舶を安全に運航する能力を養うため、海の交通標識や、船の現在位置を求める方法、目的地への進路を求める方法、船舶に搭載されている計器等について学びます。

運用

船舶を安全に運用し管理する能力を養うため、船の構造や、船を操船する方法、貨物の積み込みや荷卸しの方法等について学びます。

海事法規

船舶の運航に活用する能力を養うため、海の交通法規や、船員として守るべき法規等について学びます。

海洋気象

船舶の安全運航に必要な基礎的能力を養うため、海上における気象や海の状態に関することや、これらの観測法等について学びます。

機関係

船舶で使用されている機械類の構造、保守や電気、計測、制御といった科目を学びます。船を走行させるためのエンジン、船内電源を供給する発電機、また、荷役装置や冷暖房機、冷凍機に至るまで、あらゆる機器類の運転や管理といった機関士になるために必要な知識や技術を身につけます。

船用機関

主機関や発電機関に使用されているディーゼル機関を中心に、それを支えるボイラや油清浄機、空気圧縮機などの補助機器の構造や仕組み論や操作方法などを学びます。

機械工作

船舶で使用される金属やその他材料の構造、整備作業などで使用する工具の名称や使い方、作業方法や作業内容について学びます。

計測制御

機械を安全に動かす上で、知っておくべき圧力、温度、流量などの計測データについての理論やセンサー類の構造、自動運転などの制御の理論について学びます。

電気電子工学

船舶を動かす上で、なくてはならない電気についての理論や船内に設置されている電気機器・電子機器の構造や操作方法を学びます。

実習・訓練

教室での座学以外に、校内練習船での操船訓練、カッター訓練、ロープの結び方、溶接の技術などを学ぶ実技の科目もあります。また、救命及び消火に関する座学や実技を行い、非常時の対応能力を養います。

海上実習

校内練習船、カッター及びモーターボートにより慣海性を養います。

航機実技

ロープの取扱い、金属加工など船舶に必要な技術を学びます。

総合訓練

救命設備、生存技術、消火装置、水泳など、緊急時に備える訓練を行います。



3. 学校教育 (2)

海技大学校

海技大学校では、新人教育、資格教育、実務教育・訓練、水先教育及び国際協力コースを実施しています。国際条約への対応や海事社会におけるニーズを的確にキャッチして優秀な人材を安定的に育成し、船舶の安全・効率的な運航の確保、海技の伝承の維持・向上に努めながら、長いスタンスで船員のキャリアパスをサポートしています。

また、船舶の運航に関する高度の学術及び技能に関する研究を行うとともに、「外国の研修生の受入」「外国の船員教育機関等への専門家の派遣」「関係委員会への委員の派遣」「国際会議への参画」「研究成果の普及」「海事思想の普及」を行うなど海運界に幅広く貢献しています。

海技大学校の教育課程

海上技術コース (航海専修・機関専修)

海上技術短期大学校において修得した知識を基に、2年間で三級海技士免許の取得に必要な知識・技能をさらに習得し、運航現場において海技力を発揮できる海技者を養成します。



海上技術コース (航海専攻・機関専攻)

四年制大学・短大等を卒業し、社船実習船を有する海運会社に雇用されている者を対象に2年で三級海技士免許の取得を目指すコースです。(社船実習船を有する海運会社に雇用されている者以外にあっては2年6ヶ月)



外航基幹職員養成コース (航海・機関)

船員教育機関の卒業生を対象としたコースです。外航商船での訓練や実務を通じて、即戦力として活躍できる船員を養成します。国土交通省の補助金を受けた外航日本人船員の確保・育成プロジェクトの一部として行われています。

海技士コース (三級航海・機関、四級航海・機関、五級航海・機関)

三級から五級の海技士国家資格の取得を目指すコースです。受験資格を有する船員を対象としたコースで、卒業者は国家試験のうちの筆記試験が免除されます。また、在学期間の1/2が乗船履歴として加算されます。

運航実務コース

運航実務コースでは、船舶の技術革新に対応した訓練や船舶の運航上必要な資格に係る以下に示す講習、訓練をはじめ約70種類の講習や訓練を実施しています。

- ・ PEC講習
- ・ 水先免許更新講習
- ・ BRM訓練
- ・ ERM訓練
- ・ ECDIS訓練
- ・ 登録生存講習及び登録消火講習
- ・ 海技者のフロン類取り扱い技術者講習
- ・ 船舶局無線従事者証明認定講習 (新規訓練)
- ・ IGFコードの適用を受ける船舶向け基本訓練
- ・ IGFコードの適用を受ける船舶向け上級訓練
- ・ 極水域を運航する船舶向け基本訓練
- ・ 極水域を運航する船舶向け上級訓練



船舶保安管理者 (SSO) コース

国際航海船舶・国際港湾施設の保安の確保等に関する法律、SOLAS条約並びにISPSコード及びSTCWコードA-VI/5に基づき、船舶保安管理者 (SSO) としてその任務を果たすための講習を実施しています。

水先コース

水先人の免許は水先区ごとに等級 (一級～三級) が定められ、それぞれ嚮導できる船舶の大きさや種類が異なります。免許取得には、海技大学校での水先人養成課程修了と水先人国家試験合格が必要です。海技大学校は国内唯一の登録水先人養成機関として、新卒から現役の水先人まで幅広い教育を行っています。



国際協力コース

開発途上国の船員教育者、船員及び海事関係者等に対して必要な学術及び技能を教授しています。

4. 航海訓練

海技教育機構の大型練習船では、海上技術学校、海上技術短期大学校及び海技大学校のほか、文部科学省所管の商船系の大学・高等専門学校から学生・生徒等を実習生として受け入れ、内航又は外航の船員に求められる船舶運航の知識・技能の習得のため、安全で質の高い航海訓練を実施しています。

航海科

航海科では、船の操船、航海計器、甲板機器取扱い、気象及び関連法規等に関する科目、初級航海士として必要な船橋航海当直の技術、船体構造設備などの知識と船体保守・整備に関する技能の習得や、船舶職員として必要な管理能力を養成するため、以下の科目について実習訓練を行っています。実習訓練修了後は三級海技士（航海）又は四級海技士（航海）の海技資格を取得するために必要になる乗船履歴が付与されます。

船橋当直

航海当直に関する業務、基本事項及びブリッジリソースマネジメント（BRM）について学び実践します。また、レーダー・ARPA、AIS、ECDISなどの最新航海計器・システムの取扱方法や航行海域を調査して航海計画を立案する手法を学びます。操船を通じて、操縦性能や海上交通法規について学びます。

出入港

出入港時における各配置の作業要領を学び、実際の出入港部署で実技を繰り返し行うことによって、ウィンドラスやウィンチ等の甲板機械を単独で安全に操作する技能を習得します。重量物や貨物等の取扱い方法について学びます。

船体構造設備・保守手入

船体構造の各部名称及びその機能を学ぶとともに、船上で行う整備作業を学びます。暴露甲板での錆打ち・ペンキ塗装、ワイヤやロープを使ったアイズプライス等の技術を身に付けます。

機関科

機関科では、機関士として必要な機関の運転操作・保守・整備などの知識と技能の習得や、船舶職員として必要な管理能力を養成するため、以下の科目について実習訓練を行っています。実習訓練修了後は三級海技士（機関）又は四級海技士（機関）の海技資格を取得するために必要になる乗船履歴が付与されます。

機関室当直

推進機関プラントの運転操作及び監視要領を学び、五感を働かせて各部の温度や圧力等を把握・記録し、安全な運転を維持するための必要事項を学びます。また、主機の運転維持のための燃料油及び潤滑油の移送・清浄などの補機運転操作に関する技能を習得します。

機器保守整備

ディーゼル機関・補機等の解放整備・点検及び復旧作業を通じて、機器メンテナンスに関する知識や工具・設備、計測器具の取扱いといった技能を学びます。実際に保守作業をする場面では作業計画を立案して実行するため、図面や取扱説明書を読み込む演習を受けます。

エンジンルームリソースマネジメント（ERM）

人的資源の活用は、機関室当直や機器保守整備を実践する上で重要な訓練です。船上作業におけるヒューマンエラーを防止するため、リーダーシップとチームワーキングを活用した共同作業を学びます。



出入港部署（入港作業）



非常時の退船訓練



出入港（甲板機械取扱）



出入港部署（機側）



整備作業（ピストン抜き）



出入港部署（制御室）

5. 研究活動

独立行政法人海技教育機構法第十一条第一項第二号に則り、海技教育機構では「船舶の運航に関する高度の学術及び技能並びに航海訓練に関する研究」を実施しています。研究はその形態により、プロジェクト研究（機構が単独でプロジェクトを立ち上げて行う研究）、共同研究（機構が他の研究機関等と共同して行う研究）及び受託研究（機構が官公庁又は高い公益性が認められる団体等からの委託を受けて行う研究）の3つに分類されており、機構が保有する陸上施設と練習船隊とを組織横断的に活用することで、効果的に研究活動を行っています。

1. 実施した研究の例（令和7年度研究計画より抜粋）

1.1 プロジェクト研究

- 新規燃料取り扱いに関する船員教育の有用性に関する研究
- 船員養成のための学校における教授学習過程と学習環境デザイン

1.2 共同研究

- 海技士に求められる情報知識・技能に関する調査研究
- 自動運航船の機関室等に対する運航中の状況認識支援の研究

【共同研究機関の例】

国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所
 国立大学法人 神戸大学
 独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校

1.3 受託研究

- STCW条約及びコード包括的見直しに関する調査
- STCW条約及びコード包括的見直しにおけるシミュレータ訓練調査

【受託研究委託元の例】

一般財団法人 海技振興センター
 一般財団法人 日本船舶技術研究協会
 日本内航海運組合総連合会

2. 研究成果の公表

海技教育機構では、研究発表会を毎年開催し、多くの方に出席いただいています。なお、発表会は動画配信プラットフォームに発表動画を掲載するオンデマンド形式を採用し、長期間にわたって講演の映像を自宅や職場から視聴いただける方法で開催するなど、新たな試みにも取り組んでいます。

海技教育機構論文集は、紙媒体のみでなく電子ジャーナルプラットフォーム（J-STAGE）でも配信しています。また、国内外の学会誌や論文誌にも積極的に研究結果を広く公表しています。



洋上風力発電所沖でレーダ偽像に関する実験を行う練習船青雲丸（北海道 石狩湾）



第12回海技教育機構研究発表会の開催案内

6. 安全への取り組み

海技教育機構では、理事長をトップとして、機構本部が各学校及び練習船隊と緊密に連携し、職員の安全意識の向上並びに安全文化の醸成に取り組んでいます。

1. 安全憲章

安全の確保が全ての事業活動の基盤となることから、役職員が安全を意識し業務を遂行するため「安全憲章」を制定し、継続的に安全文化の醸成に取り組んでいます。

2. 安全活動の推進

理事長を委員長とする「安全衛生対策推進委員会」を設置し、学校及び練習船における安全衛生に関する情報を組織横断的に共有を図り、安全衛生活動を効率的、効果的に実施し、PDCAサイクルを確実に進めることができるよう体制を強化しています。

具体的には、年度単位の活動計画の策定、各学校及び各練習船での安全会議の開催、教育現場と本部が一体となっていく緊急対応訓練、研修等を実施するとともに、事故や災害の情報はもとより、不安全事象やヒヤリハット等の事例を収集し、安全対策や安全教育に反映させ安全活動の推進に努めています。また、作業における危険性及び有害性について、リスクアセスメントを実施し、潜在しているリスクの低減措置に対する活動を行っています。

3. ISMコード（国際安全管理規則）に基づく安全管理

練習船隊については、ISMコードに基づくSMS（安全管理システム）を構築し、国土交通省から「適合認定書（DOC）」及び「船舶安全管理認定書（SMC）」を任意取得しています。陸上組織と一丸となって、SMSに定めた「安全・環境保護方針」のもとで、「SMS安全管理マニュアル」に従い人命と船舶の安全及び環境保護に努めています。

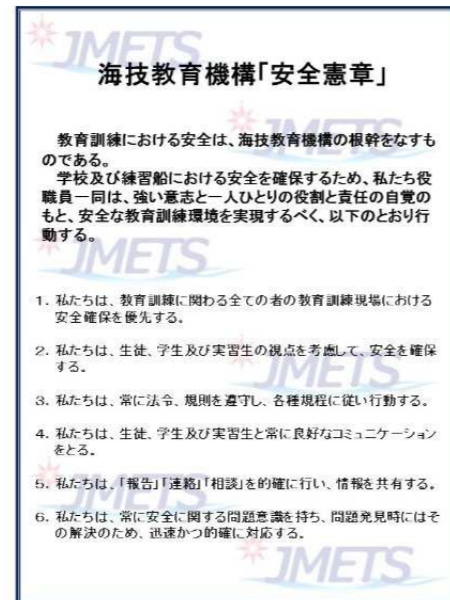
4. 災害・危機対応

学校においては、東日本大震災の経験も踏まえ、様々な災害を想定し、「安全管理・危機管理マニュアル」に従って、安全点検や防災対策（防災教育・訓練等）を行っています。地域の所轄消防署や警察署とも信頼関係を構築維持し、緊急時に備えています。

また、特定地域で災害が発生した際には、外部機関等からの要請により、学校施設の提供や練習船を当該地域に派遣するなど、災害支援に協力しています。

5. 安全・危機管理室

自然災害や重大事故をはじめ、学校運営、練習船運航及び教育訓練に係る安全の確保などの事務業務を総括するとともに情報の収集分析を行うため、安全・危機管理室を設置しています。



安全会議（WEBにより本部役職員出席）



学校における防災訓練



練習船における緊急対応訓練（負傷者の搬出）

7. 海事広報活動

海技教育機構では、学校教育、練習船実習、船舶運航の知見を利用した、海事広報活動を行っています。

1. オープンスクール／オープンキャンパス

海や船に興味・関心のある方を対象に、各学校で年数回開催しています。

学校説明、施設見学及び体験乗船など、実際の学校生活が体験できます。

2. 練習船一般公開

国内外の寄港地にて練習船の一般公開を実施し、普段目に触れることのない船の特殊な設備等を見学する機会を設けています。



練習船一般公開

3. シップスクール

小学校や中学校などに船舶職員を派遣したり、船に来ていただいたりすることで、海や船に対する関心を高めるための教室を開催しています。

4. 海王丸体験航海・海洋教室

海王丸は実習生に対する航海訓練と併行して、一般青少年向けに体験航海や海洋教室を実施しています。

5. SNSを用いた情報発信

ホームページやSNS（Social Networking Service）を活用し、実習状況や海事広報活動の情報をタイムリーに発信しています。



オープンスクール／オープンキャンパス

8. 国際貢献

海技教育機構は、船員に対する教育訓練手法や船舶運航の知見を活用して、国際貢献を行っています。

1. 国際会議への参画

国際海事機関（IMO）の会合へ、海事教育訓練及び人的因子の専門家として職員を派遣しています。派遣された職員は日本代表団の一員として国際条約等の策定や改正に貢献しています。

令和5年からは海事教育訓練において要となる国際規則である「1978年の船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約（STCW条約）」の包括改正作業がIMOにおいて行われており、改正条約に我が国の提案を正しく反映するために国内外の委員会において積極的に活動しています。



IMOで発言する職員の様子
（ロンドン IMO本部）

2. 開発途上国への船員養成分野の協力

アジアを中心とした開発途上国における船員養成分野に対する技術協力を積極的に実施しています。

令和6年度からは日本財団が助成する我が国とIMOとの共同支援事業として、インドネシア、フィリピン及びベトナムから海事教育訓練の関係者を招いて国際ガス燃料船コード（IGFコード）に関する研修を実施しており、開発途上国における次世代燃料船乗組員の養成・確保に貢献しています。

また、IMOによって設立された学術機関である世界海事大学（WMU）へ客員講師として職員を派遣し、開発途上国において海事分野で指導者となる人材の育成に貢献するなど、海事教育訓練に関する国際貢献を積極的に実施しています。



IMO共同支援事業における研修の様子
（兵庫県芦屋市 海技大学校）

9. 学校・練習船



機構本部（横浜第2合同庁舎 20階）
 神奈川県横浜市にある本部では、学校8校の運営及び練習船5隻の運航を統括・支援し、優秀な船員養成のための教育訓練を支えています。
 <神奈川県 横浜市>

海上技術学校



海上技術短期大学校



海技大学校



国立館山海上技術学校

千葉県館山市は、黒潮の影響を受け冬の間でも花が咲き誇る温暖で過ごしやすい気候です。学校の近くには東京湾に出入りする船舶が航行する「浦賀水道航路」があり、実習中はたくさんの船と行き会います。
 （令和8年度以降募集停止）
 <千葉県 館山市>

国立口之津海上技術学校

長崎県南島原市口之津町は、島原半島の南端に位置し、多くの船員を輩出してきた土地柄です。実習海域は、実習中にイルカと遭遇することもあるほどイルカウォッチングが有名であるとともに日本有数の急潮流が渦巻く早崎瀬戸があり、『学びの場』として、この上ない環境にあります。
 <長崎県 南島原市>

国立小樽海上技術短期大学校

北海道小樽市は、海と山に囲まれた商工港湾都市で、古くから海陸輸送の要の役割を担ってきました。小樽校は、8校ある船の学校の中で最も歴史のある北海道唯一の学校です。令和3年4月、航海科に特化した教育を行う短期大学校として生まれ変わりました。
 <北海道 小樽市>

国立宮古海上技術短期大学校

岩手県宮古市は、三陸リアス式海岸の中間に位置する自然豊かな都市です。その雄大な自然に囲まれた宮古校は、2008年に開設された3校目の海上技術短期大学校です。定員が1学年45人と小規模なため、一人一人きめ細やかな指導を受けることができるのが特徴です。
 <岩手県 宮古市>

国立清水海上技術短期大学校

静岡県静岡市にある清水校は、世界文化遺産に登録された三保松原に近く、雄大な富士山を望みながら、日本三大美港の一つ「清水港」で実習を行います。また、交通の便が良く、北は北海道、南は沖縄まで、全国各地から学生が集まり、切磋琢磨しながら船員を目指しています。
 <静岡県 静岡市>

国立波方海上技術短期大学校

愛媛県今治市にある波方校は、日本三大強潮流として知られる来島海峡を実習海域に持つ学校です。船舶が通航する水路は狭い上、潮の流れる方向によって航路が入れ替わる航法は世界的にも珍しく、1日約700隻の船舶が行き交う海域での実習は、船の運航を学ぶ場として最適です。
 <愛媛県 今治市>

国立唐津海上技術短期大学校

佐賀県唐津市は、九州の北西部に位置し、有名な「虹の松原」の自然、7つの島々を有する自然環境に恵まれた海洋都市です。唐津校は、古くから大陸への海上交通の要路である玄界灘を実習海域としている学校です。令和6年4月、航海科に特化した教育を行う短期大学校として生まれ変わります。
 <佐賀県 唐津市>

海技大学校

西日本最大の港湾である阪神港に位置する海技大学校（兵庫県芦屋市）では、大阪湾から瀬戸内海をフィールドに、「新人教育」「資格教育」「実務教育・訓練」及び「水先教育」まで多岐にわたる教育・訓練を提供しています。
 <兵庫県 芦屋市>

練習船

海技教育機構は、5隻の大型練習船（帆船2隻、汽船3隻）を運航し、航海訓練に取り組んでいます。



日本丸

1984年、50年余りにわたって海の若人を育ててきた初代日本丸の代替船として建造されました。日本丸は、我が国の造船技術の粋を結集して建造された帆船であり、その性能は航海訓練で遺憾なく発揮されています。また、機関教育にも対応するため、初代日本丸に比べ一回り大型化されました。航海訓練の途次、国内はもとより外国においても数多くの寄港地で行事に参加し海事思想の普及あるいは国際親善に寄与しています。

海王丸

1989年、59年間にわたって海の若人を育ててきた初代海王丸の代替船として建造されました。従来、練習帆船は国が建造し船員教育の教育訓練のみに使用してきましたが、船員教育訓練とあわせて「青少年のための海洋教室や体験航海」も担っています。海王丸の帆装艦装は日本丸より優れており、またフェザリング機能を有する可変ピッチプロペラを装備したため、日本丸をしのぐ帆走性能を持ちます。

大成丸

4代目となる大成丸は2014年に就航しました。国内輸送で活躍する内航船員を養成するため、内航船の主要航路を航行しながら訓練を行います。また、主機（メインエンジン）には、広く採用されている低公害ディーゼルエンジンを搭載しています。

銀河丸

2004年、銀河丸（2代目）の代替船として建造されました。低公害エンジンの搭載、毒性の少ない船底塗料の使用など環境へ配慮するとともに、Integrated Bridge System（IBS）や操船シミュレータ、ジョイスティック操船装置などを装備することにより、航海の安全と効率化を追求した練習船となっています。船内及び装置の一部をバリアフリー対応とし、人に優しい構造となっています。

青雲丸

1997年、初代青雲丸の代替船として建造されました。我が国の船員養成施設の実習生への乗船実習だけでなく、開発途上国の船員になろうとする者に対する乗船実習を実施するなど、国際協力に寄与する役割も担って建造されました。外国人実習生の乗船に対応するため、浴室とは別にシャワールームを設けるなど、実習生居住設備も工夫が施されています。

項目	日本丸	海王丸	大成丸	銀河丸	青雲丸
進水日	1984年2月15日	1989年3月7日	2013年7月25日	2003年12月12日	1997年3月4日
総トン数	2,570トン	2,556トン	3,990トン	6,185トン	5,890トン
全長	110.09m	110.09m	91.28m	116.4m	116m
航海速力	13.2ノット	12.95ノット	14.5ノット	18.65ノット	19.5ノット
定員／実習生定員	190人／120人	199人／108人	176人／120人	246人／180人	252人／180人